

血液1滴から大腸がん検査

神大研究グループが開発

1滴の血液から大腸がんを見つけられる新しい検査法を、神戸大学院医学研究科の吉田優准教授らの研究グループが開発した。実用化されれば早期発見が期待できるといふ。米科学誌に報告した。

生命活動でつくられる代謝物質をしらみつぶしに分析するメタボロミクスと呼ばれる手法を使って、大腸がんとそうでない人の血液に含まれる物質の違いを使って調べた。その結果、分析装置にかけても安定しているある種のアミノ酸など4種類の物質の量を調べ、計算式に当てはめると、大腸が

半日で分析、早期発見に期待

んかどうかをほぼ診断できることが分かった。

がん細胞が作り出す物質（腫瘍マーカー）を調べる従来の血液検査では、早期がんはほとんど見つけられなかったが、新しい方法を実際に試すと8割以上の確率でがんを発見できた。しかも1回の検査は500円程度のコストで済み、半日で分析できるという。

吉田准教授は「大腸がんは発見時にはすでに進行している場合が多いが、早期に見つけられればほぼ完治できる。さらに同じ手法を使えば、大腸がん以外のさまざまな病気も1滴の血液から一発で検査できる可能性がある」と話している。

（須藤大輔）